

平成 26 年度事業報告

平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

公益社団法人 神奈川県助産師会

はじめに

H26 公益法人となって 3 年目であり、さらなる適切な事務の運営・財務管理の徹底を目指し、本部との連携活動を図りながら本会の目的達成のために活動を行った。

I 助産及び母子保健の普及・啓発及び調査・研究に関する事業

本会主催の出前講座を主としたセミナー・研修会を開催し、広く多くの人への助産及び母子保健の普及・啓発に努める。

1 助産及び母子保健の知識の普及・啓発活動

(1) 出前講座・助産師の派遣等

・助産師が伝える「いのちのはなし」事業の推進

小学校、中学校等、26 施設から申し込みがあり、5 名の助産師が講師として助産師が伝える「いのちのはなし」を実施した。

・タクシードライバーへの研修、ブライダルマタニティセミナー等出前講座の開催

タクシードライバー研修：定期的個人向け講習会 2 回（7 月 3 名、2 月 3 日 12 名）、出前講座（湘南交通 9/11.17.18 約 200 名、ラジオタクシー 10/15、15 名 ケイエムタクシー 11/11、12 80 名）を開催した。

女性のための健康講座：「ブライダルマタニティセミナー」から「女性のための健康講座」に名前をかえ、周知のためのキャンペーンを無料で実施した。東洋羽毛首都圏販売株式会社 8 名、大衛株式会社アメジスト 9 名、そごう西武株式会社（横浜そごう）7 名、社会保険労務士（横浜南支部会）40 名、神奈川県立保健福祉大学 2 年生 70～80 名、神奈川県立衛生看護専門学校助産師過程 32 名 学生に出前講座を開催した。

・助産師・助産師学生を対象とした講座開催

東京医療保健大学助産学専攻科の学生に「もうすぐ助産師になる皆さんへ」の出前講座を開催した。

・各種団体や企業からの助産師派遣の依頼推進

赤ちゃん本舗で沐浴指導を実施した。海老名店は助産師 6 名が担当し 13 回実施、アリオ橋本店は助産師 12 名が担当し 11 回実施、湘南モール店は助産師 5 名で 3 回実施した。

・他団体の研修会への講師派遣推進

福岡県・福島県・佐賀県・静岡県の助産師会からの要請により研修講師を派遣した。

(2) 子育て・女性健康支援事業

・支援センター事業（ハローベビーかながわ）の推進（電話相談など）

ハローベビーかながわでは、927 人/年の相談を受け、935 件/年の相談内容に対応した。

・ふれあい助産師サロンの開催により、何でも相談室・ベビーマッサージ教室

ふれあい助産師サロン（ベビーマッサージと母乳相談）を 11 回/年開催し、48 組/年が参加した。

- ・ **助産師が伝える「いのちのはなし」事業の推進**

助産師が伝える「いのちのはなし」を実施する助産師の育成と事業の活性化を目的として、見学者募集のチラシを作成、配布した。また、見学者受け入れ手順と申込書、報告書を作成し、講義内容の検討を実施した。

- ・ **母子育児支援を目的とした「かながわ助産師フェスタ」の開催（公益事業推進特別委員会）**

12月6日、横浜クイーンズスクエアにて「かながわ子育てフェスタ 2014～いつもあなたのそばに助産師はいます～」を開催、12組の市民団体や助産師団体が出演した。育児相談コーナーでの母子支援や助産師の活動等を市民にPRをした。

- ・ **「とわ助産院」として母子に活動の場を無償で提供する**

『とわの日』としてイベントを開催した。80組の母子、家族が来所した。

(3) 行政機関や関係団体との連携強化

- ・ **医療ネットワーク参入のため行政機関との連携を強化**

行政や政党へ要望書を提出した。関連団体へも随時相談し、連携強化を図った。

2 助産師業務の安全管理及び支援業務

＜安全管理＞

ヒヤリハット等の事例をはじめとし、安全管理にかかわる情報の分析による最新データから助産師を教育し、助産師1人1人が業務上の事故再発を防止及び災害発生時妊産婦、女性の支援体制の確立ができるよう以下の活動を行う。

- ・ **安全対策の研修**

助産師のためのリスクマネジメント研修会（6/28）を開催した。知っておきたい情報管理、助産業務ガイドライン2011改正に伴う内容について、産科補償制度事例検討グループワークを行った。会員25名が参加し、医療連携の交流の場となった。（安全対策委員会）

- ・ **嘱託医・嘱託医療機関との連携強化**

7/10に嘱託医療機関との連絡会を開催した。また、賀詞交歓会に嘱託医、嘱託医療機関を招待し、連携を強化した。（助産所部会）

- ・ **日本助産評価機構の助産所評価受査を推進**

助産所安全管理評価を県内全助産所28か所に行った。（助産所部会）

- ・ **助産師の損害賠償保険への加入推進**

（助産所部会）1年契約である助産所責任保険に、11月に全助産所が加入したのを確認した。

（勤務部会）積極的に取り組めなかった。

（保健指導部会）部会集会でウーベル保険会社より賠償責任保険の内容と加入の必要性の説明を受けた。

＜支援事業＞

- ・ **自然災害時に行政が対策本部実施の際、とわ助産院が「妊産婦・母子対策センター」となり、安全の確保と助産師のボランティア派遣を行う（とわ助産院・災害対策委員会）**

災害時安否確認連絡網の訓練を行った。とわ助産院の災害時相談所用として備品を購入した。

- ・産科医不足の対策のため助産院留学の制度を設置し、とわ助産院で助産師・学生を受け入れる
とわ助産院にて、助産院留学研修生 2 名を受け入れた。
- ・助産所運営の改善支援のため、産婦人科医・行政に要望書の提出を国・県に分けて行う
要望書を行政に提出した。H27 年 4 月より「神奈川県看護実習受入拡充事業費補助金」の対象
に県内助産所が加わった。

3 調査・研究

以下の収集データにより調査・研究を行い、その結果をホームページ・会報から公表し、広く多くの人に周知させる。

(1) 各部会等における活動内容のデータ

- ・助産所の分娩・搬送に関するデータ収集と助産所の安全管理に対する他者評価の実施（助産所部会）
IT システムを利用して、毎月、転院搬送や分娩数を集計、ホームページに掲載し、学会で公表した。また、県内助産所同士で助産所安全管理評価を行った。
- ・保健指導部会のヒヤリハット事例に関するデータ収集（保健指導部会）
ヒヤリハット事例について集計した。3 件/年あった。
- ・助産所実習の受け入れ状況と就職状況のデータ収集（教務部会）
助産所実習の受け入れ状況と就職状況の調査を行った。ホームページに掲載した。

(2) 母子保健活動の実態に関するデータ

- ・子育て・女性健康支援センター事業（ハローベビーかながわ）のデータ
ハローベビーかながわの電話相談を集計し、本部に報告。ホームページに掲載した。
- ・いのちのはなし事業のデータ
助産師が伝える「いのちのはなし」の依頼数などを集計し、ホームページに掲載した。

(3) 助産師が行う研究等

- ・助産師が行う研究等に関する研究倫理審査の実施（倫理委員会）
2 件の研究倫理審査を実施した。（平成 26 年度の審査件数承認 1 件、審査継続 1 件）

II 助産師の資質向上のための教育及び環境整備に関する事業

1 助産師及び助産師養成機関学生の能力向上・スキルアップのための研修会・講習会

次のセミナー・研修会を本会運営のとわ助産院を主な会場として開催する。

- ・助産所部会による最新知識に基づく助産所運営に関する研修会（助産所部会）
研修会を 2 回開催した。
9/6 参加者 47 名（会員 34 名・非会員 13 名）
11/29 参加者 19 名（会員 17 名・非会員 2 名）
- ・保健指導部会による母子保健指導者のスキルアップ研修会（保健指導部会）
研修会を 2 回開催した。
7/26 参加者 55 名（会員 36 名・非会員 19 名）
2/5 参加者 63 名（会員 42 名・非会員 21 名）

・ **勤務部会による勤務助産師スキルアップのための研修会**（勤務部会）

研修会を 3 回開催した。

7/11 参加者 39 名（会員 22 名・非会員 17 名）

9/27 参加者 28 名（会員 10 名・非会員 18 名）

2/21 参加者 44 名（会員 19 名・非会員 25 名）

・ **「ハローベビーかながわ」による相談員スキルアップのための研修会**（ハローベビー）

研修会を 2 回開催した。

5/7 参加者：21 名（会員 13 名・非会員 7 名＋学生 1 名）

12/17 参加者：61 名（会員 42 名・非会員 19 名）

・ **安全対策（リスクマネジメント）研修会**（安全対策委員会）

研修会を 1 回開催した。

6/28 参加者 25 名（会員 25 名）

・ **災害対策研修会**（災害対策委員会）

「避難所運営ゲーム」研修会を開催した。参加者：15 名。

・ **新生児蘇生法講習・新生児蘇生法フォローアップ研修**（NCPR 特別委員会）

NCPR 講習会 B コース 2 回（6 月、12 月）フォローアップ講習会 1 回（9 月）

出張 B コース講習・出張フォローアップ研修 1 回（10 月）開催した。

・ **産後ケアに関する研修会**（産後ケア研修特別委員会）

研修会を 2 回開催した。

6/27 参加者 44 名（会員 27 名・非会員 17 名）

11/22 参加者 39 名（会員 27 名・非会員 11 名）

・ **助産院留学の推進**

助産師能力向上のための留学制度について留学生募集のためチラシ作成した。

・ **その他**

実習調整システムのリニューアル化と実習調整を実施した。看護師養成機関の増加に伴い、助産所部会保健指導部会に働きかけ実習受入れ施設の拡大に繋げた。（教務部会）

また、会議を 1 回開催し、平成 28 年度南北関東ブロック研修会のプログラム案を検討した。

2 助産師の労働環境等の改善

以下の活動を行い、労働環境の改善を図ることで助産師・助産所の資質向上のための環境整備に力を入れていく。

（1）労働環境の改善

・ **病院・診療所における勤務助産師の待遇改善への取り組み**

要望を絞り込むのにあたり、H26 年度は見送った。

・ **勤務助産師の復職やリフレッシュを支援**

助産院留学希望者 8 名を 4 施設にて受け入れ実施。助産所部会・保健指導部会の留学受け入れ施設を募集した。（理事会・事業部）

・ **賠償責任保険加入の推進 ※**

(2) 助産師・助産所の資質向上のための環境整備

・新規開業や契約解除による嘱託医・嘱託医療機関の確保

神奈川県産科婦人科医会と連携を取り、協力してくださる医師をお願いした。(助産所部会)

・周産期医療ネットワークに助産所が組み込まれるよう産婦人科医会・行政に要望

行政や政党へ要望書を提出した。(理事会)

・事故再発防止のための事例検討

毎月部会にて事例検討を行った。(助産所部会)

各所属での再発防止に依頼している。(勤務部会)

・助産業務ガイドライン遵守の徹底

転院・搬送・異常報告書提出から部会で症例検討し、助産業務ガイドラインの厳守にむけて、ガイドラインの冊子を配布した。(助産所部会)

・助産所安全管理評価・日本助産評価機構助産所評価の推進

助産所の環境整備として助産所安全管理評価を県内全助産所 28 か所に行った。(助産所部会)

・保健指導部会員の情報共有化(メーリングリストの活用)

保健指導部会員のメーリング登録者に、月 1 回のメールを発信し、本部や会の活動状況や研修案内等の情報を伝えた。(保健指導部会)

・賠償責任保険加入の推進 ※

・保健指導開業助産師(出張以外のすべての有施設助産所)の安全管理基準の周知徹底

部会集会において保健指導で開業している助産師に安全管理基準についての説明を行った。(保健指導部会)

・助産所における実習受入環境の整備

学校と助産所との調整会議を 2 回開催。出席者：学校関係 39 校、助産院 6 施設。(教務部会)

III 助産所の運営

本会の収益事業とし、とわ助産院の健全な運営を行う。

妊婦検診・分娩介助・育児相談等の事業を行うとともに、本会の公益目的事業である「助産及び母子保健の普及・啓発」を目指し、以下の活動を行っていく。

・各種研修会・マタニティヨガ・ベビーマッサージ等開催のための研修室貸出し

・助産師・学生の技術向上のための実習の場として活用してもらう。

また、保育園への講演、中学生の職業体験受入等、行政・近隣の子育て機関との連携強化に努め、安全管理指針に基づく従業員への安全管理教育・施設の防犯・防災管理を徹底させ、併せて施設の充実を図ることで本会運営のとわ助産院を安心して安全な施設とすることに努力する。

とわ助産院運営会議を 9 回開催し、助産院運営について話し合った。財務会議に 7 回出席し、経営状況の把握、経営の修正を行った。

分娩件数は 64 件/年(助産制度での受け入れ 4 件)であった。妊婦健診・乳房マッサージ、出張指導、産後健診の実施、産褥入院を受け入れた。妊婦健診 565 件/年、産後健診 72 件/年、母乳外来 521 件/年、産後ケア入院 56 件/年(うち横浜市事業 39 件)、看護学校実習(5 校 106 名)助産師課程実習(5 校 12 名)受け入れた。

設備充実として 5 年経過し、破損等のため備品を購入した。HP を更新し、広報活動を行なった。研修室は、委員会、研修会で活用された。一般貸出は減少した。

固定資産管理（店舗総合保険加入継続）は加入継続した。会員に建設資金借り入れの一部を返済した。修繕積立として 20 万円の積み立てを行った。

地域や福祉保健センターとの連携強化として、4 講座（ヨガ、ベビーサイン、ベビーマッサージ、ベビーママクラス）の定期開催や沐浴教室 10 回実施した。とわの日のイベント開催では昨年以上の母子が参加した。日曜日以外の電話管理を行い、相談員として参加した。

助産業務ガイドラインを遵守した。助産所機能評価申し込み終了。産後ケア受け入れに伴い、助産師 1 名増員し、常勤 3 名の勤務体制にした。その他に登録助産師 1 名、1 回/週の定期的勤務を実施した。

IV 会員相互扶助に関する事業

本部・他全国部会との連携の強化を図る。

本部との連携強化として、本部会議に助産所部会員、安全対策委員を派遣した。ICM アジア大会の開催にむけた支援を行うため会議に参加した。

特に以下の活動を行うことで、本会の組織強化と福利厚生の実現を図る。

- ・表彰(すくすく赤ちゃん献金表彰等)
- ・叙勲、表彰推薦
- ・慶弔

各種表彰、会員規程に則り、会員へ慶弔を行った。

- ・賀詞交歓会

平成 27 年 1 月 16 日賀詞交歓会を開催した（87 名参加）。

- ・研修会参加補助のためのチケット発行（2000 円券 3 枚）

会員に 1 人にチケット 2000 円 3 枚配布した。（利用 294 枚）

- ・財務会議（定例会 12 回、臨時 5 回）会計監査、上半期決算会議、H27 年度予算会議を実施した。広報活動として、広報誌「ニューレター」（2 回）と、かながわ助産師マップを発行した。

V その他

本会の基本財源である会費収益の安定化を図るため、会員ネットワーク推進等の会員増加対策の実現を目指す。また、各企業・団体への寄付の依頼活動もリーフレットの配布・ホームページからの呼びかけ等により積極的に行う。

会員増加推進目的で「入会紹介キャンペーン」「入会予約キャンペーン」を実施した。（組織強化委員会）

神奈川県内の関連企業を中心に「助産師会紹介チラシ」の配布等し、寄付活動を実施。助産師会主催、関連団体主催の集会、研修会等での出店企業に寄付活動を実施、31 件の寄付があった。

以上